

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【泉南地域の中核的公立高校として、思いやりのある人を育成し、地域に信頼される学校をめざす。】 1 課題解決能力（主体的に課題を発見して、ICTを用いた情報収集、論理的に思考する力）および発表する能力を育み、「確かな学力」を育成する。 2 グローバルな視点を持ち、「自己実現」と地域社会に貢献できる人を育成する。 3 思いやりのある人間性を育み、未来の創り手となる人を育成する。 4 生徒の成長とともに、教師も学びながら新たな課題に取り組む同僚性の高い学校組織を構築する。
--

2 中期的目標

1 「確かな学力」の育成と授業改善。 （1）学びを人生や社会生活に活かせるよう、早期にキャリアを展望させ、働く知識・技能の習得など、新しい時代の変化の中で学び続けられる資質・能力の育成をするため、主体的・対話的・深い学びの視点からの授業改善に取り組む。 ア 相互授業公開や研究授業、1人1台端末の活用、他校好事例の見学。 イ ICT機器を効果的に利活用し、協働的な学びと一斉学習を併存的に展開し、学びの深化を図る。 ウ 学校教育自己診断および授業アンケートなどを効果的に活用した授業改善に一層取り組む。 ※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度は毎年75%以上を保つ。（R4：69.5%、R5：76.9%、R6：75.5%） （2）特色ある教育活動の充実。 ア 国際理解教育をさらに充実させる。 イ 「ハートフルほいく専門コース」をさらに発展・充実し、あわせて学校行事への地域住民の参画や、大学との連携の拡大を図る。
2 地域に根差した高校として、「自己実現」「自律心」を育成。 （1）規律を守り社会構成員としての自覚を高める。 ア 遅刻・早退・欠席等を減少させ、基本的生活習慣を確立する。 ※全学年年間遅刻件数（R4：9.9回/人・年、R5：11.0回/人・年、R6：10.1回/人・年）を毎年徐々に減らしR9年度に7.0回/人・年以下とする。 イ 通学マナーの向上と広域生徒指導の定着を図る。 （2）自らの学習状況やキャリア形成を見通し、生徒一人ひとりの希望進路の実現をめざす。 ※国公立大学、公務員就職者は毎年少なくとも1人ずつ（R4：0名、R5：1名、R6：3名）、大学と看護医療系学校などの合格者は毎年50名以上輩出する（R4：54名、R5：53名、R6：38名）。 ※キャリアパスポートを用いて学習の記録をポートフォリオ的に記録し、進学・就職時に活用できるようにする。 （3）社会に開かれた学校づくりを更に推進し、その取り組みはホームページ等を活用しての広報を充実する。 ア 有志による通学路清掃活動を毎年実施。（のべ参加者数：R4：187名、R5：120名、R6：113名） イ 学習発表の場として地域イベントへの積極的な参画。 ウ ホームページのコンテンツ充実とメール発信ツールの効果的活用。
3 思いやりのある人間性をはぐくみ、人権・多様性を尊重する教育を推進。 （1）一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実。 校内支援体制の更なる充実とともに、福祉医療関係人材・SC等外部機関との連携をより深め、障がいのある生徒、課題を抱える生徒、そうでない生徒等、すべての生徒の学びと育ちを支援する。 ア 「自尊感情」の育成と「多様な個性」「ともに生きる社会」について理解を深める教育を推進する。 イ 人権教育の計画的実施と研修及び共同学習の推進。 ※人権尊重の教育を充実させ、対人関係に起因するトラブルの未然防止に繋げる。 ウ 生徒の変化や人間関係のトラブルを見逃さず認知に努め、関係機関と連携して、校内委員会を開催し、未然防止、対応、解決に向かう。 （2）特別活動や生徒会活動を通じて自己有用感を醸成する。 ア 部活動やボランティア活動を通じて社会貢献の意識を高める。 イ 学校行事を通して集団の中での人間関係の大切さと集団への帰属意識を高める。 （3）健康・美化・防災への意識を向上し、清潔で整備された安全で安心な教育環境を維持する。 ア 感染症に係る対応を状況に合わせて継続する。 イ 日々の清掃活動の充実を図るとともに、施設・設備の点検、維持管理、更新などに積極的に取り組む。 ※学校施設の機能強化（安全・保健衛生・長寿命化）の為に総点検を実施し課題を抽出する。 ウ 避難訓練を火災、南海トラフ大地震およびJアラートを想定して計画・実施する。
4 働き方改革に取り組む同僚性の高い学校組織を構築。 （1）教育課題と向き合い、時代の変化に対応できる教職員の育成を図る。 ア 時代の変化に柔軟に対応できる学校文化の醸成と教員力を向上するため、組織的・計画的な授業改善研修を軸とした研修を実施する。 （2）教職員の働き方改革と健康管理の観点から、週一回午後5時定時退庁日を設定し、教員一人ひとりの意識改革を推進。 ア 組織として業務に取り組み、時間外勤務縮減に向けた取り組みの促進や勤務時間の自己管理の徹底。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【生徒対象】 殆どの設問について、昨年度からの増減が8％以内となっており明確な変化はない。7％を超える増減があった設問と肯定率は次の2点。 問4「りんくう翔南高校では服装や頭髮の指導がきちんとされている」31.1％減の57.2％、問14「地震・火災などの災害の時の避難経路を具体的に教えてもらっている」14.2％増の45.8％となっている。 また、肯定率が50％を下回る設問は問17「自分は授業や部活動で地域の人や近隣の学校と関わる機会が多い」が0.1％減45.8％となっている。 特に問4で肯定率が著しく減っており、多くの生徒が生徒心得等で定められている身だしなみのルールと実態が乖離していると捉えていることがわかる。 【保護者対象】 プリント配付、一斉送信システムで複数回にわたり回答を求めたが0.9％の増加に留まった。 殆どの設問について、昨年度からの増減が8％以内となっているが、問3「子どもは授業に集中して取り組んでいるようだ」は12.1％減の61.9％学年別にみると、1年は0.3％減、2年は21.4％減、3年は14.2％減と、例年であれば学年が進行すると肯定率が増加する傾向とは異なっており、生徒の多様化を保護者も把握できていることが反映された結果と判断する。 3つの設問で肯定的な回答が50％を下回っている。設問は問12「りんくう翔南高校のクラブ活動は活発であると思う」47.6％、問17「子どもは学校で、授業や部活動で地域の人と関わる機会があるようだ」20.2％、問20「学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」27.4％。何れも、今後、本校を活性化するために欠かすことができない保護者との連携や、地域との交流が十分に行えていないことを保護者が正確に捉えていることがわかる。 【教員対象】 昨年度から20％以上の増減がある設問が3点ある。問2「生徒はあなたの授業を理解している」21％増の85.3％、問15「この学校は、教室や運動場など授業等の活動がしやすいように整備されている」20.8％減の47.1％、問20「自分は、PTA活動に積極的に参加している」21％増の35.3％。生徒対象の問2「学校授業はわかりやすい」は近年の肯定率が70％台後半で推移している一方、教員が「生徒はあなたの授業を理解している」の肯定率は60％台前半で推移していた。多くの教員が生徒の多様化を認知し、教科用図書の変更や、講義内容の工夫したことが反映されたと判断する。 一方、1人1台端末が多様化する生徒の個々のスペシャルニーズに対応するための有効なツールであることは多くの教員が認識できているが、導入が停滞し、整備されている施設・設備を十分に活用できていない状況が問15「この学校は、教室や運動場など授業等の活動がしやすいように整備されている」の肯定率の減少に反映されている。今年度は、後半期より遠隔授業や通信による授業も始まっているため、全ての教員がICT機器を授業に活用できるスキルの習得が急務。	【第1回会議】（7月2日実施） 1 令和7年度 学校経営計画について ・姉妹校提携は国際理解教育を充実させる学校の目標と行政の施策が同じ方向性。姉妹校提携することが目的になってはいけない。相互校のバックグラウンドの違いを理解し地理的な要素や学校のテーマなど共通項を探し出して交流できるかが重要。 ・開かれた学校については、地域の教育力（既存の資源）を活用していくべき。地域のポテンシャルがある企業や資源を活用していくべき。 ・泉南市には外国にルーツのある方が多く在住している。高校生が小中学校に来て一緒に授業をすると活性が上がると思う。地元 に根差した活動ができればよい。 ・地域のイベントに参加、国際交流するなど、実社会に出たときに役立つ活動を充実させるのは良いことだが、全国的にインプット（知識）が欠落していることが課題。 2 「府立高校改革グランドデザイン」（令和7年3月）に沿った入学者選抜における学校特色枠の設定について ・今あるものをどう上手に見せていくか、何をどう問うかが重要。特色枠入試は大学のA0入試と似ているが、高校のカリキュラムは大学とは違いそぐわない。中学校の総合的な探究の時間がA0入試に対応するシステムになっていないのであれば問題である。今後、高校サイドがどういったかたちで中学を支援できるのかが鍵。 ・中学校ではこの制度には困惑している。中学では生徒に高校でなにを学びたいのかを伝えている。中学生は希望もあるが不安も多い。基礎的な学習内容を学びなおしたい、コミュニケーション能力をつけたいという生徒がいる。地域でつながれるなら部活動などからでも構わないので一緒に活動をしたい。 ・「地域に信頼される学校」とある。地域が学校になにを求めているのかということに立ち返ると、地域とどれだけつながれるかが重要。関空が近い、海が近いなどの特色を生かして課題を洗い出してニーズを掘り下げていけばよい。 ・新型コロナ流行であり言われなくなったが、ポートフォリオを活用して入試をすればよいのではないか。 【第2回会議】（11月6日実施） 1 「府立高校の魅力化に向けたアンケート調査」の集計結果を踏まえた広報活動について ・公立高校の定員割れは私学の無償化が最大の要因。施策の結果、定員割れしており、定員割れの原因を各校の広報活動とするのは筋違い。 ・近隣他校のような多様性への対応（個別最適化）は、次期学習指導要領の内容そのもの。当該校の多様性への対応は、タイムリーで需要をつかんでいる。りんくう翔南高等学校はそこをもっと強化しては。 ・このニーズならりんくう翔南高等学校だとなる核が必要。 ・地理的不利がある短大では高校生に受験してもらうことが課題。最終の目標は学校が楽しいこと。楽しいことを前面に押し出している。りんくう翔南高等学校に来てよかったと思えるよう、生徒にとって楽しい取り組みを実施し、パンフレットだけではなくインターネット（SNS など）でアピールしていくことが大切。 ・りんくう翔南高等学校に入学する生徒の自転車通学の割合が少なくなっているのは懸念事項。 ・中学生は、受験の直前にどこの公立高校に行くか決める。3年の1月に進学資料を仕上げるので2月のオープンスクールは少し遅いか。私学志望者の面談は中学3年の11月から行っている。公立高校に行きたい生徒はまだ多い。行って、見て、聞いて、また、先輩からの楽しいという情報を聞いて進学先を決めていく。 【第3回会議】（1月26日実施） 1 令和7年度学校経営計画の評価について ・生徒指導について、トイレ退室が増加しているとのことだが、授業から抜けさせないようなクオリティにする、飽きさせないようにする等の工夫が必要なのではないか。 ・部活動の加入率について、アルバイトは経済的な活動であり、逆にクラブ活動をする場合は出費がある。是非については生徒・保護者の経済状況を把握することも重要ではないか。 2 令和8年度学校経営計画について ・遅刻増加について、高校生は個人の評価にのみ影響するが、社会人になった場合、同僚や会社の利益損失にも繋がる。マナー指導を行う場合の社会生活を念頭に置いた指導が必要でないか。 ・令和7年度の学校教育自己診断のアンケートで、生徒自身の服装や頭髮指導に対する肯定率が下がっていることや、保護者からも頭髮などの身だしなみ指導が厳しすぎるとの意見が多くある。マナー指導に移行していくことで改善を図っていくべきだと考える。但し、管理職の立場と、実際に生徒に接する教員では捉え方が異なる。現場の状況を鑑みて学校全体の方向性や、指導内容については教員との合意が必要と考える。 ・20年ほど前、本校で教員をしていた際に進路指導部に所属していた。悪い意味でなく、進路状況や指導内容は当時と大きく変わっていない。地域性や気質は不変のものであるからと捉えている。 ・働き方改革について、AIの活用とあったが、他校でもICTに詳しい教員が研修を行うなどしていると聞いている。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6 年度値]	自己評価
1 「確かな学力」 の育成と授業改善	(1) 主体的・対話的・深い学びの観点からの授業改善	(1) ア・授業の相互見学や研究授業の実施とその後の研究協議や振り返りシートのフィードバック。 ・アクティブラーニング等の授業方法の研究実践。 イ・授業改善を軸に、あらゆる教育活動における ICT 機器の利用拡大。	(1) ア・授業アンケート結果の平均 3.1 以上を維持する。 [3.28] ・学校教育自己診断における授業満足度を前年度より上昇させる。 [75.5%] イ・教科指導における ICT 機器の活用を増加させる。 [ICT 活用確認 第 1 回授業見学时:23 人、第 2 回授業見学时:21 名]	(1) ア・授業アンケートの平均は 3.31 (教諭以上) と昨年度より 0.03% 増加し目標を達成できた。(○) ・学校教育自己診断における生徒の授業満足度が 3.8% 増加し 79.3% となった。一方、教員の、生徒が授業を理解しているという項目では 21.0% と大きく増加しており、大きな乖離がある。(○) イ・授業見学、教室巡回における ICT 活用的是 23 名、資料提示、配布、課題の回収、体育のフォームチェック等で活用。昨年度比で割合は増加。R 7 23/40 R 6 23/44(○)
	(2) 特色ある教育活動の充実	(2) ア・グローバル人材育成のため、SDGs(持続可能な開発目標)の視点も踏まえ、国際理解教育委員会による交流行事の充実と活性化を進める。(国際交流代表団の派遣継続) ・地域の日本語教室や NPO 等と協力して、多文化理解の取組みを進める。 ・国際的共通語として中心的な役割を果たす英語力をバランスよく育成するため、英語で話す機会の確保。 イ・ハートフルほいく専門コースの充実。 ・大学、短大、専門学校との連携推進。	(2) ア・国際交流事業を発展的に継続させる。[国際交流センター 10 名参加] ・多文化理解の取組みへの参加を奨励する。[1 回] ・校内で英語を用いて発表をする教育活動を実施する。[1 回] イ・ハートフルほいく専門コースの授業での成果発表を、校内校外を問わず年 3 回以上実施する。[5 回] ・大学・短大・専門学校との連携を 2 校以上とする [2 校] ・大学、短大、専門学校との連携授業を年 10 回以上実施する。[10 回]	(2) ア・国際交流センターとの交流ではなく、より主体的な活動として、大阪観光大学とコラボして留学生との交流や関西国際空港で体験活動を行った。1 回目は留学生と、英語で自己紹介、ディスカッション、レクリエーションを行った。2 回目は関西国際空港でチェックインカウンター体験や外国人にインタビューを行った。有志 13 名参加。(◎) ・上記の交流の際に、留学生とテーマを決めてディスカッションを行った。各国(日本、韓国、ミャンマー)の文化についても紹介があった。(○) ・国際交流の事前学習において本校生徒同士で英語で趣味や文化について発表があった。1 回実施。(○) イ・校内で保育園児に手遊び歌を発表する、大型絵本の読み聞かせを行うなどした。また、学年別に校内学習発表会を行い動画やダンスを交えた取組みの発表をした。発表回数計 5 回(○) ・専門学校と連携して成人として身につけておきたいマナーの一つとしてテーブルマナー講習会を実施した。また、専門学校附属の子ども園に体験実習に行った。専門学校との連携授業実施。2 校。(○) ・短期大学、専門学校、食品会社等と連携して実践的な授業を実施した。保育、調理等の分野を中心に専門家による授業や実習を受けて将来の進路決定の動機につながった。10 回実施(○)

府立りんくう翔南高等学校

2 地域に根差した高校として「自己実現」「自律心」の育成	(1) 自律心を高めて規律ある学校生活を送る。	(1) ア・全校一斉指導（服装・頭髮・身だしなみ指導）を充実させ規範意識を高める。 ・式典（始業式・終業式）での校歌斉唱及び正装の徹底を図り儀式的行事感を身に付ける。	(1) ア・停学を伴う特別指導案件数を30件未満とする。 [26件] ・全学年総年間遅刻回数を生徒一人当たり平均10回未満とする。[平均10.1回] ・式典時、自主的に整列ができるようにする。	(1) ア・特別指導案件は16件、24名と減少傾向。しかし、懲戒指導までには至らなかったものの軽微なものを含めると、案件は多岐および複雑化し、増加している。今後も生徒の規範意識を高めるために教員が一丸となってカウンセリングマインドを高め、未然防止と生徒の規範意識の向上に努めたい。(○) ・登校時の遅刻総数6,235回（生徒一人あたり平均13.0回）で昨年度より増加した。また、授業時等のトイレ退出は認めてはいるのだが、教室で授業を受けることが苦痛でトイレ退出に逃避している生徒も増加しており、トイレ退出数は増加傾向である。これらは規範意識と共に学校力が問われる数値と捉えて引き続き授業の大切さを再認識させる必要がある。(△) ・式典指導では始業式終業式を体育館で実施。教員の指揮の下、大半の生徒は指示される前に自主的に行動できているが、声掛け指導が必要な生徒も一定数存在する。ただし、全体として静粛に式典を行うことはできている。今後は生徒会指揮での自主的な整列をめざしていきたい。(△)
	(2) 一人ひとりの希望する進路を実現する。	イ・広域生徒指導を定着させる。	イ・広域生徒指導を1回実施する。[1回]	イ・交通安全講習会を実施し、地元域警察署と連携し交通安全に係る学習を行った。1回実施。(○)
	(3) 一人ひとりの希望する進路を実現する。	(2) ア・高大接続改革（大学入試制度の変更：多面的評価の導入）へ対応。 ・進路実現に向けた外部模試の有効活用 イ・定期考査前補習や進学希望者補習の実施と、教育産業との連携及び特講（進学補習）や夏期自主勉強週間の充実。 ウ・それぞれの進路実現のサポート。（一つ上の進路目標を意識） ・指定校推薦やAO入試に頼らず、一般入試や公募制推薦入試を活用した進路実現の拡大。 エ・就職希望者向けに就職講座を実施し、求人票の見方、願書の書き方、面接練習といった実践的な指導を行う。	(2) ア・キャリアパスポートを各学期に2部作成する。[2部] ・外部模試受験者数を20名程以上とする。[15名] イ・特講、夏期自主勉強会の企画、実施を60回以上行う。[56回] ウ・国公立大学や公務員合格を1名以上とする。[3人] ・公募制推薦入試等合格者数を10名以上とする。[12人] エ・進路未決定者（進学浪人を含まず）を3％以下にする。[11.6％]	(2) ア・進路ガイダンスHRでキャリアパスポートを各学期に2部作成しキャリアガイダンスに活用。(○) ・外部模試受験者数は3名である。教員の働きかけにより、4大進学者は昨年よりも増え、進学に対する意識が向上してきた。(△) イ・3年生対象に特講を実施し、7名が参加した。35回実施。(△) ウ・国公立大学0名で、公務員の合格者は、自衛隊1名であった。(○) ・公募制推薦入試等合格者数7名であった。(△) エ・進路未決定者（進学浪人を含まず）は9％で、事務、アパレル、美容関係を希望する生徒を中心に自己開拓で行く生徒が増え学校斡旋が減少した。(△)
	(3) ウェブサイトや学校通信などの広報活動を充実させ、地域に開かれた学校づくりを更に推進する。	(3) ア・学校行事への地域住民の参画、連携の拡大 イ・メール発信ツールやホームページを充実させる。 ウ・地域イベントへの積極的な参画。 エ・学校紹介の充実。	(3) ア・体育祭、翔南祭への地域住民の参画を奨励する。 [保護者、未就学弟妹入場実施] イ・メール発信ツールへの登録者数を増加させる。 [1151件] ・メール発信ツールを40件以上発信する。学年主任も発信できるようにして有効に活用する。 [メール発信35件] ウ・地域連携活動を5回行う [4回] エ・学校説明会申し込み中学生数を増加させる。[270名] ・中学校、近隣私塾へのアプローチを80回以上とする。 [中学校訪問延80回 私塾等説明会5回]	(3) ア・体育祭、翔南祭（文化祭）ともに保護者、未就学弟妹の入場を許可して実施。体育祭は、新競技の借り物競争や応援合戦など生徒主体で実施できた。翔南祭は、食品部門を中心に舞台やゲーム、展示とも盛況であった。同窓会企画の出店もあった。(○) イ・メール発信ツール登録者895件と生徒数減少に伴い減っているが加入率は93.4%と高い値を維持した。(○) ・重要事項の連絡、アンケートの実施、学校行事の案内呼びかけなどの連絡に活用。メール発信51件。(○) ウ・近隣大型商業施設の文化祭に1回、ハートフルはいくコースの生徒に加え有志生徒がワークショップを出店。また、大阪関西万博でハートフルはいくコースの生徒が考案した「こども園のお昼のメニュー」のプレゼンテーションを1回実施。(○) エ・校内学校説明会を3回実施。軽音楽部によるウェルカムコンサートやダンス部の演舞、生徒会役員による制服の説明やなどは好評であった。第2回めと第3回めは食堂の無料試食会も実施した。合計の申込人数が旧9地区生徒数減少の中でも274名となった。(○) ・全教員で延べ70校の中学校に訪問。本校の特色や高校でのフォロー体制およびオープンスクールを案内。塾等主催進学説明会に5回参加。ブース及び発表形式で説明した。(○)

府立りんくう翔南高等学校

3 思いやりのある人間性をはぐくみ、人権・多様性を尊重する教育の推進	(1) 「自尊感情」の育成と「多様な個性」「ともに生きる社会」を理解できる教育活動を進める。	(1) ア・志学、道德教育、キャリア教育等と連動した総合的な探究の時間やホームルーム活動を充実させる。 イ・生命の尊さを問う、また感染症を含む様々な偏見や差別を許さないなどの人権教育を充実させる。 ウ・全教育活動を通して、生徒の変化や人間関係のトラブルを見逃さず認知に努め、機を逸することなく関係機関との連携にて校内委員会を開催するなど、組織として未然防止、対応、解決に努める。	(1) ア・学校教育自己診断による生徒の学校満足度（「学校に行くのは楽しい」の肯定率）を80％以上とする。 [74.2％] イ・人権テーマ（同和問題、障がい理解などで当事者からの話を聞く等）を扱ったホームルームや職員人権研修を生徒8回以上、教職員2回以上実施する。[生徒8回・教職員2回] ウ・認知後は速やかに会議を開催し、解決に向けて対応する。[会議数：のべ35回]	(1) ア・学校満足度は77.1％で、概ね達成し、昨年度まで3年連続減少していたのが3.0％の増加に転じた。（○） イ・生徒対象の人権ホームルーム・講演会を計8回実施した。トランスジェンダーの方、DV撲滅に向け取り組んでおられる方、薬物中毒から立ち直った方、両足義足のパラリンピアンなどを講師に招いた。生徒対象の講演は事後の感想アンケートより「よく理解できた・興味を持った」の肯定的回答が8割以上あった。人推委員以外の教員が講演会の中で演技をしたり、外部の研修に参加したりするなど、取り組みの輪が広がっている（○） ウ・今年度からSSWに関する運用ルールが変更となり、主に日常生活アンケートに関するアドバイスを受けた。教育相談に関するケース会議は17回実施。内容は充実化している。いじめ対策委員会については案件が増加しており、14回開催している。個別の事象が増加傾向で組織的に対応している。会議数：のべ31回（○）
	(2) 美化・健康・保健・衛生管理・防災への意識を醸成し、清潔で整備された安心・安全な教育環境を実現する。	(2) ア・事務室等との連携による施設、設備のより適正な維持管理に努める。 ・学校内外における美化活動及び清掃活動の充実に努める。 ・生徒保健委員会の取組みを充実させ生徒の健康意識の増進を図る。 ・食物アレルギー対応委員会を充実させ「学校における食物アレルギー対応ガイドライン」の周知を徹底するなどし、事故の未然防止に努める。 ・喫煙防止、性感染症防止、薬物乱用防止教育の推進。 イ・地域の防災訓練に学校施設を貸し出すなど、地域ぐるみによる防災意識の向上を図る。 ウ・健康月間を設定し健康診断結果等を活用して生徒の健康への意識を高める。 エ・学校3師による健康相談の実施。	(2) ア・校内照明のLED化の促進。 [68ヶ所]消防設備を計画的に更新する。[42ヶ所]校内草刈りを定期的実施。[9回] ・生徒保健委員会を年3回実施する。[3回] ・食物アレルギー委員会を学期に1回開催する。[3回] ・学校保健の講演会を引き続き実施し、肯定率を維持する。 [肯定率:喫煙防止教室94％、性感染症防止講演99％、薬物乱用防止教室99％] イ・近隣保育所等との連携を継続する。[2回] ウ・歯の健康月間として年間2回実施する。 [1回] エ・学校3師による健康相談を年5回実施。[15回]	(2) ア・突発的なトイレ故障、器物破損、漏水等が多発したが迅速に復旧を行い、安全で衛生的な校舎を維持した。校内照明LED化417か所。防水工事8ヶ所。消防設備58か所更新。校内草刈り年9回実施。低濃度PCB取り外し完了408ヶ所 トイレ洋式化100％達成（○） ・年3回生徒保健委員会を開催し、毎月教室前の消毒液の補充や管理、女子トイレの生理用品の補充について計画、実施をした。年3回の美化週間を設定し昼休みの校内放送で保健委員が美化の呼びかけをし、保健委員が廊下や階段のゴミ箱清掃を行った。研究発表ではなく環境美化を実践した。（○） ・食物アレルギーに係る委員会を4月、11月、2月の3回実施。今年度事案は発生しなかったが、修学旅行前にエピペン所持生徒の確認や他校の事例を共有した。3回目は今年度の総括と来年度の実施日の確認、生徒アレルギー情報再確認。（○） ・喫煙防止教育講習会(94％)、性に関する講習会(95.9％)、薬物乱用防止教室(96.3％)と高い肯定率を維持している。（○） イ・保育所が本校に避難訓練を実施した際に手作りおもちゃでお迎えし、大型絵本の読み聞かせなどで交流。2回実施。（○） ウ・年2回期間中の保健だよりで歯の健康維持についての意識を喚起した。また歯科健診の結果報告をすべての生徒にコメントを添えて通知した。今年度の歯科検診は昨年よりも虫歯の件数が減少した。（○） エ・内科相談6回、歯科相談9回実施。内科は直接的な面談はなかったが普段対応する中で、気になる案件について学校医より助言を頂き、生徒に還元する形をとった。歯科は虫歯の多い生徒を呼び出し、現在13名が歯科指導を受けている。15回。（◎）
	(3) 特別活動や生徒会活動を通じて自己有用感を醸成する。	(3) ア・部活動を活性化し、部活動加入率を上げる。 ・クラブ活性化担当の配置、地域や外部人材との連携による部活動及びボランティア活動の充実を図る。 イ・地域中学校との交流を推進する。 ・生徒主体の体育祭、翔南祭、学習発表会など学校行事を充実させる。 ・PTA 地域清掃活動を生徒会の通学路清掃と連携させて、生徒とPTAがともに校外で清掃活動を行う。	(3) ア・部活動加入率を35％以上にする。[30.0％] ・ボランティア部や生徒会が主体となり、有志体験活動やボランティア活動について、10回以上の実績をめざす。 [年5回延べ40名] イ・部活動について、中学校との連携回数を増加させる。[4回] ・学校行事に対するアンケートでの肯定的意見を増やす。 [77.5％] ・一斉通学路清掃参加者総数を100名以上とする。 [123名]	(3) ア・部活動加入率29.7％で昨年度とほぼ同じ。4月の当初にクラブトライアルを2日間設定して1年生全員にクラブ体験を実施。（○） ・生徒会役員が地域清掃で誘導係や、オープンスクールでの生徒会活動及び制服の紹介を行った。計5回と例年並みに活動し、生徒の模範となっている。延べ30人参加。（△） イ・中学との部活連携は各クラブの部員が減少しており、オープンスクールで中学生に教えたりする活動のみに留まっている。（△） ・学校行事に対する肯定度は74.6％で、昨年度比で2.5％増加し概ね達成している。（○） ・学校内外における美化活動について通学路清掃をPTAの協力のもと6/6と12/12に実施した。参加者の合計が82名。PTAにも食堂利用券を配布。（○）

府立りんくう翔南高等学校

4 働き方改革に取り組む同僚性の高い学校組織の構築	(1) 教職員の資質向上のため、授業改善を軸に、人権教育、いじめ防止、インクルーシブ教育、教育相談、食物アレルギーなど必要に応じたテーマで講演会や研修を実施する。	(1) ア・ミドルリーダーや外部講師により、授業改善（ICTを活用した授業実践に向けた研修）、偏見や差別を許さない、人権感覚の醸成等の研修を実施し教職員の資質の向上に向かう。 イ・外部への授業公開を実施し、教員のさらなる授業力向上をめざす。 ウ・専門家との連携、研修の充実 エ・交流及び共同学習の推進	(1) ア・ミドルリーダーや外部講師により、授業改善等の研修を年間10回以上実施する。[15回] イ・外部への授業公開を3回以上実施する。[6回] ウ・教職員研修及び生徒対象の講演会、担当者による研修報告会を6回以上行う。[6回] エ・支援学校との交流を推進、発展させる。[生徒作品展示1回]	(1) ア・職員向け校内研修として、AED1回、人権5回、初任10年研交流1回、公費私費会計1回、個人情報管理2回、不祥事防止4回、合計13回実施。(○) イ・今年度は初任研、10年研および府立学校アドバンストセミナーD受講者がいなかったため未実施で0回(△) ウ・教員対象の人権研修はこどもの人権を中心に実施した。職員会議の中に組みこみ実施したものを含めて5回実施。今後もより充実させ教職員の人権感覚を高めたい。(○) エ・近隣の支援学校と生徒作品展示の交流1回実施。(○)
	(2) 働き方改革を推進し、労働安全衛生管理体制の充実。	(2) ア・働き方改革推進のため、週1回の午後5時の定時退庁日(水曜日)を設置する。月間超過勤務対象者には産業医との面談と管理職との面談を実施して改善を図る。 イ・時間外勤務時間削減のため、既存の業務の整理につとめる。フォーム作成ツールを活用して効率化を向上させる。	(2) ア・月間超過勤務80時間以上の職員をなくす。[1名、延べ1回] イ・欠席連絡の効率化と時間外電話の自動メッセージおよび学年別スマートフォンの活用。	(2) ア・時間外電話メッセージ対応による効果もあり、月間超過勤務80時間以上の年間1人、延べ1回。当該教員とは産業医に加えて、管理職とも面談を実施して、勤務状況の改善について指導した。引き続き定時退庁を推進する。(○) イ・フォーム作成ツールによる連絡システムが浸透した。前夜や、早朝の入力も増え電話連絡による欠席連絡は1日2件程度。一方、自身の状況を教員に正確に伝えることに難しさがある生徒が増えており、後日、長時間、電話による連絡・相談をするケースが増えている(○)